

事業計画書

1. 団体名	ゆうゆう窯の会
2. 事業名	竹炭窯の継承と竹資源循環による地域再生事業
3. 本支援金活用回数	☒ 1回目 ☐ 2回目 ☐ 3回目
他補助金との併用	☒ 併用なし ※初回は10/10交付・2回目以降は3/4交付 ☐ 併用あり（補助金名： ）※申請中含む
4. 対象	対象となる地域や地域住民を記入してください。 ・西別院町の住民 ・竹林の管理に課題を抱える土地所有者 ・自然体験や環境保全に関心のある一般参加者 ・地域のお子どもおよび保護者
5. 期間	実施期間を記入してください。 ※対象期間は最大で令和8年4月1日～令和9年3月31日までです。 令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日
6. 地域課題・事業目的	地域課題と事業の目的を記入してください。
地域課題（どのような地域課題があり、誰がどのように困っているのか） 西別院町では、かつて地域住民と小学校が連携しながら竹炭窯を活用した活動が行われており、竹炭づくりは、地域資源である竹を活用するだけでなく、子どもたちが地域の自然や文化に触れ、地域住民との交流を育む貴重な学びの場となっていた。しかし、竹炭窯の担い手であった方の高齢化により数年前に活動が停止し、現在は窯が十分に活用されていない状態となっている。その結果、竹炭づくりを通じて行われていた地域交流や、小学校における特色ある教育活動も途絶え、地域住民同士のつながりが弱まる一因となっている。また、竹炭窯で使用されていた竹を地域で継続的に活用しなくなったことで、周辺竹林の管理機会も減少し、放置竹林の増加につながっている。西別院町は都市部からの移住者も多い地域であるが、地域行事の縮小なども重なり、新旧住民が交流する機会が減少している。地域コミュニティの希薄化が進む中で、地域住民・移住者・子どもたちが世代を超えて関われる場づくりが求められている。	
事業目的（上記の地域課題をどのような解決結果に導きたいのか） 本事業は、地域に残る竹炭窯を、地域住民と西別院小学校保護者が中心となって継承・再生し、再び地域と学校をつなぐ場として活用していくことを目的とする。竹炭窯の再生を通じて、地域に受け継がれてきた炭焼きの技術や文化を次世代へ継承するとともに、炭焼きや竹を活用した体験活動を通じて、新旧住民や子どもたち、地域住民が交流できる機会を創出する。また、炭焼きに必要な竹を地域の竹林から切り出すことで、結果として放置竹林の適正管理や景観保全にもつなげていく。さらに、将来的には西別院小学校とも連携し、かつて行われていた竹炭づくり活動を地域に取り戻すこ	

とで、子どもたちが地域に愛着を持ちながら成長できる環境づくりを目指す。
学校と地域をつないできた「窯の火」を、地域住民と保護者の手で再び灯し、地域コミュニティの再構築につなげていきたい。

7. 事業内容	上記の課題を解決するためになにを実施するのか具体的に記入してください。
事業の実施概要	
本事業では、竹炭窯の継承・再生を中心に、以下の活動を実施する。 ・竹炭窯の修復および整備 ・炭焼き技術の継承と安全管理の習得 ・炭焼きに必要な竹の切り出しおよび竹林整備 ・竹炭づくりの実施 ・炭焼き体験や竹を活用した交流イベントの開催 ・地域住民、移住者、子どもたちの交流機会の創出 初年度は特に、経験者から指導を受けながら、竹炭窯の取り扱いや炭焼き技術、安全管理を学び、本会会員が継続的に窯を運営できる体制づくりを進めるとともに、地域住民の参加を呼びかけて、試行的に竹炭づくりや交流イベントを実施する。	

●スケジュール（会議、準備、イベント、検証などをいつ行うか計画を記入してください。）		
日程	内容（活動内容・参加費・場所など具体的に記入）	場所・会場
4 月	竹製材	炭窯(拠点)
5 月	窯整備(窯補修、草刈など)	炭窯(拠点)
5 月 30 日 ～ 6 月 1 日	炭焼き 竹炭作り体験	
7 月～10 月	竹を使ったイベント (竹道具作り、竹筒ごはん、流しそうめんなど)	炭窯(拠点)
11 月～3 月	竹林整備(月 1、2 回)、竹製材(月 1、2 回)	竹林、拠点
3 月	一年の総括 次年度準備	炭窯(拠点)

●情報発信方法		
発信媒体（チラシ、SNSなど）	発信量	広報範囲（配布範囲、掲示場所等）
SNS(instagram, 西別院小保護者アカウント等) チラシ	活動毎 イベント毎	オンライン上にて公開 西別院町での配布
8. 目標		事業実施に当たって下記の目標を具体的に記入してください。
① 事業による変化・成果目標		
・竹炭窯の継承および再稼働 ・炭焼き技術や地域文化の継承 ・地域住民同士の交流促進 ・移住者と地域住民との関係づくり ・地域と学校をつなぐ活動の再構築 ・竹の継続活用による竹林の適正管理		
② 上記①を達成するための実施目標数値（事業の回数や参加者数など）		
炭焼き実施回数：年間 2 回 ・ イベント開催：年 3 回 ・ 参加者数：延べ 50 人以上 ・ 竹林整備面積：400 m²～1000 m²		
9. 連携・協力	他の団体や行政機関などとの連携・協力について、連携・協力先の名称と具体的な連携・協力内容を記入してください。 ※記入にあたっては、連携・協力先との十分な事前協議を行ってください。	
本事業は以下の団体・関係者と連携して実施する。 ・ 土地所有者（竹林提供） ・ 竹炭経験者（安全管理および技術指導）		
10. ステップアップの内容	※活動 2 年目以降の団体は以下の内容を具体的に記入してください。	
① これまでの事業実施時の課題と成果		
次年度以降は、竹炭窯を地域交流や体験学習の拠点として継続的に活用していく。 地域小学校との連携を進め、かつて行われていた竹炭づくり活動の再開を目指すとともに、地域外からの参加者や移住希望者に対しても地域の魅力を発信していく。 また、竹炭や竹製品の販売、体験イベント参加費等による自主財源の確保を図りながら、持続可能な運営体制を整えていく。		
② 今回申請の事業はこれまでの事業と比べどう活動の充実をさせているのか		
経験者からの指導のもと安全管理、技術の向上に努めて より多くの方に安心して参加していただく。 単に、竹林整備、竹炭作りで終わらずイベントなどで地域の魅力の一つとして発信できるコンテンツにする。		

11. 次年度以降の展開	本支援金による支援終了後の事業展開について、資金の獲得や事業の継続展開をどのように行われる予定なのか、方法を具体的に記入してください。	
	実施内容	資金獲得方法（助成金・寄付金）
2年目	竹炭や竹製品の販売、体験プログラムの有料化等により自主財源の確保を図る。 また、企業・団体との連携や助成金・寄付の活用により、持続可能な運営体制を構築する。 将来的には、地域資源を活用した循環型の活動モデルとして定着させ、継続的な地域活性化につなげる。	支援金 イベント参加費 竹炭販売
3年目	2年目同様に、自主財源の確保、持続可能な運営体制を考えるとともに地域の魅力を伝えるコンテンツとして確立させる。	支援金 イベント参加費 竹炭販売

12. 審査会	審査会の発表順番は何番を希望しますか。いずれかに○をつけてください。 申請書の提出が早い団体の希望を優先して順番を決めます。
一番最初	
前半	○
後半	
一番最後	
申請額に対して減額で交付決定となった場合も申請事業を実施しますか。 「はい」もしくは「いいえ」にレ点を入れてください。	
☒ はい ☐ いいえ	

※内容が本様式に入りきらない場合は適宜追加し、事業内容が分かる参考資料があれば添付してください。